## 対話法研究の浅野良雄さん(三吉町)

# 〝会話〟通して被災地支援

## 確認を織り交ぜ 信頼感生み出し

相手を思いやりながら自分も楽しく会話し、トラブルも防げる対話法を提案している昭和大元講師で対話法研究所所長の浅野良雄さん(58)=桐生市三吉町二丁目=。昨秋から東日本大震災の被災者がいる仮設住宅や中学校などで、会話を通じた被災地支援活動を始めた。今後も継続していく考えで、2月12日にはスタッフ養成講座を開催予定。浅野さんは「相手を傷つけない対話法の重要性は被災地支援に限らない。ぜひ多くの人に参加してほしい」と呼びかけている。

相手を思いやりながら自分も楽しむ対話法を被災地支援にも生かしている浅野良雄さん(桐生市三吉町二丁目の自宅で)

浅野さんは桐生市生まれで南小、南中、桐高、群大工学部卒。東京福祉大大学院修了。電機メーカー勤務を経て学習塾経営の傍ら、1992年にカウンセラー資格を取得し、97年に対話法研究所を設立。従来の理論と技法に実践経験を加えた対話法を確立した。

対話法はすでに多くの医療福祉現場で活用され、複数の医療福祉系大学で講師を務めたほか、講習会も各地で開催。対話法を学びながら自由に語り合う「対話の会」も現在、桐生市内に加え、都内や長野県で継続開催している。

会話していて難しいのは、相手の発言の真意をたしかめずに、自分が言いたいことを言ってしまったとき。あいまいな表現や思い違いが互いに不信感を生み、トラブルの原因になることが多い。

対話法ではこれを避けるため、「自分の考えや気持ちを言う前に、相手が言いたいことの要点を、相手に言葉で確かめる」のが原則。この要点を相手に確かめる応答を〝確認型応答〟と呼び、そのほかの一般的な応答と区別する。

きょうも帰りが遅いの?と夫が妻に質問された場合を考えてみる。帰宅の遅さを責められたように感じた夫が「いつだっていいじゃないか」と答えると、険悪な雰囲気になってしまう。

しかし、妻は帰宅時間を知りたかったのか、早く帰ってほしい事情があったのか、自分も遅くなると言いたかったのかもしれない。「きょうは何かあるのかい」と、まずは妻の真意を確かめることから始めようというのが〝確認型応答〟だ。

相手の意見や気持ちを分かろうとする思いが伝わることで、お互いに心理的な安心感や信頼感が生まれるという利点もある。

昨年9月には東京都板橋区で、震災や原発事故で都内に避難している人たち向けに「対話の会」を開催。同11月には被災地・宮城県東松島市で仮設住宅の住民向けに、同12月には石巻市の中学校で保護者向けにそれぞれ開いた。

今月28日には石巻市の同じ中学校を再訪予定。こうした支援活動を続けていくためにも、浅野さん以外に2人しかいないスタッフの増員は急務となっている。

### 仲間を募集し養成講座も

スタッフ養成講座は2月12日午後1時から2時まで、桐生市美原町の市立昭和公民館で行う。講座終了後は同2時から4時まで同所で開く定例の「対話の会」で実践してもらう。

参加無料。問い合わせは浅野さん(電44・8970、対話法研究所ホームページhttp://tai wahou.com)へ。

---

## 冬鳥 人を魅する

### 峡の探鳥会に40人 にキンクロハジロも

鳥が数多われた探

みどり市大間々博物館・コノドント館が主催する冬季の自然体験企画「高津戸峡探鳥会」が22日、高津戸ダム周辺で行われた。美しい羽で人気の高いオシドリをはじめ、マガモやオナガガモなどの観察を楽しんだ。

日本野鳥の会群馬の協力で行われた探鳥会には約40人が参加。オシドリの県内一の集結地として知られる高津戸峡とあって、高崎や足利から駆けつける人もいた。

出発点の神明宮で早速、ウメに止まるメジロに遭遇した参加者はマガモやオ

---

## 断層

### 林

「聞く耳を持たない人には、何を言っても伝わりません。われわれ専門家は、科学的に言えることを丁寧に説明していくしかないんです」。先日、みどり市東町で講演した県立県民健康科学大(前橋市)の杉野雅人博士は講演後、淡々とそう話した▼環境放射線学の専門家からだろう。原発事故の10年以上も前から県内の放射線量マップを作り、事故後も1000カ所以上の測定データをもとに作製した線量マップを公表している研究者でさえ、現状は心配ないという趣旨の発言をしただけで「御用学者」「安全デマ」といった中傷にさらされる。やっかいな世の中になったものだと思う▼杉野さんは放射線につ